

令和3年度 事業報告

部門名: 総務課

結果凡例:◎100%、○80～99%、△79%～50%、×50%未満

運営方針	結果	備考
1. 利用者が安心して過ごせる環境の維持・管理	○	北海道からの助成金において各施設へ感染症対応の備品の補充対応等指示を行った。
2. 職員が安心して働ける環境の維持・管理	○	コロナウィルスの影響で、実施期間が例年と異なったが、法令どおり健康診断(夜勤者は2回)と、ストレスチェックの実施した。また、なりすましメールに対する注意喚起、日々のチェックなど法人全体に促した。
3. 官公庁、取引先等外部との良好な関係を保ち法人を守る	○	今規程の改定及び期日までに各種届出を行い、業務に支障なく事業の運営ができた。
4. 総務課全員の更なるレベルアップを目指す	○	今年度は、事務職員1名と管理員1名の新規採用を行った、自身の業務を引継ぐことで今までの業務の振り返りと、教えることで業務の見直しができた。
5. 経費削減、節約、省エネルギーを常に心がける	○	燃料費の高騰など、省エネルギーの周知徹底を行ったが、経費削減までには至らなかった。
実行方針	結果	備考
1. 非常時にも対応できる日々の備品と施設管理を行う	○	昨年度のかかり増し経費の補助金で購入できなかった感染症対応の備品の購入を、感染防止対策支援事業の助成金から、非常時のガウンやマスクの他、感染対応に関する備蓄について、各施設に準備を促した。
2. 求人活動の促進、離職率低下に向け現場職員の目線に立ち人材定着の強化を図る	○	ハローワーク、市内広報紙、法人ホームページなど求人活動を行った。また、マイナビ求人サイトへの公開の他に、福祉人材センターなどの新たな求人情報の公開を行った。
3. 法人規程をはじめ、各種法令や基準等を熟知し総務課としての役割を果たす	○	規程に遵守し業務にあたり、規程の変更等も行い各事業所への配布も迅速に対応した。
4. 業務の内容を理解し、課内職種業務を受け持てるようスキルアップに努める	△	各々の業務は、支障なく遂行できていたが、課の職員のそれぞれの業務を各々が理解または熟知するには至っていなかった。
5. 無駄のない備品・物品購入を行い経費の節約を日頃から心がける。	○	新規の購入については、相見積もりで同じ商品でも安価で購入可能な事業者の選択や使用する頻度に応じ購入方法を工夫し、物品の購入はできていた。
定量的な目標	結果	備考
各部門が定量的目標を達成できるよう、全面的にバックアップ!	○	欠員事業所への職員募集の手続き、課の事務及び管理員でできる人員不足事業所への協力体制、必要に応じた物品購入等を行った。
定性的な目標	結果	備考
各部門がスムーズ且つ効果的に業務を遂行できるよう支援する!	○	外部研修の他、官公庁からの通達文書の配信、送信等、事業の運営に役立てる情報発信などを行った。偽のなりすましメールなど注意喚起を行い、パソコンのウイルス対策などの支援を行った。

令和3年度 事業報告

部門名: 業務課

結果凡例:◎100%、○80～99%、△79%～50%、×50%未満

運営方針	結果	備考
1. その人らしい生活が継続できるように、ユニットケアを実践できるように勉強します。	○	ユニットごとでの日々の生活、ケアの実践を年度開始から行えた。リーダーを中心に、会議等を通してユニットケアについて学習につなげることも出来ていた。
2. 一人一人の思いや気持ちを大切に、理解しながら支援していきます。	○	利用者個々の身体状況や精神状況の把握に努め、利用者さんの思いや気持ちに寄り添った日々のケアを行っていた。
3. 自分らしく暮らし続けることができるよう一人一人の生活習慣に沿った日常生活援助を提供します。	○	利用者さん、一人一人の以前の生活状況や趣向、家族の意向などを確認し、個々の生活習慣に合わせた日常生活の援助につなげるよう心掛け、取り組んでいた。
4. 住み慣れた地域とのつながりを大切に、生きがいを持って生活が継続できるようお手伝いします。	△	新型コロナウイルス感染対策にて、積極的な地域との交流の実施には至らなかったが、天気の良い日は市内のドライブや施設周辺の散歩等の実施などを行った。
5. 施設で働くそれぞれのスタッフが定着して働きやすい職場になれるように考えていきます。	○	スタッフ一人ひとりの個性を尊重し、チームとして働くことができるように話し合いを重ねてきた。
実行方針	結果	備考
1. ユニット会議でユニットケアのあり方を考えていきます。他のユニットケアの施設見学。	○	新型コロナウイルスの影響もあり、他施設の見学は行えなかった。毎月の各ユニットでの会議を通し、各ユニットの利用者さん像や環境を考慮しながら、それぞれのユニットでケアの取り組みは行っていた。
2. 認知症ケアの理解を深め、丁寧な対応で利用者に安心できる介護を提供します。	○	認知症状の悪化や、持病の悪化など看護、かかりつけ医と連携を図りながら、入居者が安心して生活できるように務めた。
3. 個別の生活スタイルを見直し、スタッフ間で共有できるシステムを構築します。	○	利用者さんの状態についてや家族間の連絡について、各ユニットごとに介護、相談員、栄養士、看護と情報交換を行えるツールを作成し、随時ミニカンファレンス等の実施を行えた。
4. 網走市の古くからある行事参加の計画を立て、懐かしさや喜びを感じて生活していただきます。	×	新型コロナウイルス感染症予防の観点から、今年度も全ての行事等への参加を見合わせた。
5. ストレスを抱え込まないように、なんでも相談できる体制を作り、働きやすい職場づくりを構築し離職ゼロを目指します。	○	家庭の事情や体調不良等による離職者3名であった。衛生委員会によるストレスチェックの実施、必要に応じて医師との相談体制などの取り組みを行い体制作りにも努めていた。
定量的な目標	結果	備考
1. 入所の年間稼働率95%(年間24,273名)、短期入所の年間稼働率85%(年間3,102名)を維持できるようにします。	×	特養、年間稼働率は93.9% 短期入所生活介護は、87.5%で入所は目標より下回る結果となった。
2. 毎月施設入所者66.5名、短期入所8.5名を維持できるようにします。	○	施設入所、短期入所共にひと月だけ、目標数値を下回る月があったが、年間通し目標の数値維持に努めることができた。
定性的な目標	結果	備考
1. 入所70床、短期入所10床を稼働していくにあたっての人材確保。	△	新規採用、介護職員6名、看護職員2名で、年度開始は介護・看護共に職員が不足している状況であったが、概ね1ユニット10名の配置、看護師も6名体制をとれるようになった。
2. なないろ館を利用される利用者・家族に、安心感・満足感を提供できるサービスを目指します。	○	新型コロナウイルスの影響もあり、ご家族に施設内の様子を見ていただくことはできなかったが、状況に応じた面会やWEB面会、メール等での写真のやり取りなどを通し、ご家族に施設生活の様子をお伝えできるよう取り組んだ。

令和3年度 事業報告

部門名: 大曲レインボーハイツ

結果凡例: ◎100%、○80～99%、△79%～50%、×49%以下

運営方針	結果	備考
1. 利用者さんに少しでも楽しみのある施設生活の提供。楽しみや目的を持った、大曲地域、大曲だからできるサービス提供方法を確立、小規模多機能の利用者確保に励みます。	△	昨年同様新型コロナウイルス感染症の影響で、外出・家族同行行事はできず、施設内で季節に応じた行事を中心に行った。
2. 一人ひとりに合わせた個別ケア、認知症ケアの推進を図ります。	○	体調や精神面での変化に伴い、その都度個別ケアに取り組み対応することができていた。
3. 一人ひとり、楽しく充実した生活、安心した施設生活を送れるよう、思いやりをもった介護が出来るよう、職員の定着、ユニットリーダー・サブリーダーの育成、基礎介護の向上に努めます。	△	利用者に対する声掛け等に思いやりを持った対応を心掛けるよう、ユニット会議等で職員全体に周知していた。
4. 大曲に根ざした施設として、地域との交流・協力・行事への参加を通して貢献できる施設を目指します。	△	地域の行事関係も新型コロナウイルス感染症の影響で中止となり参加する事は出来なかったが、地域の協力体制としては代表者が西地区の会議に参加し地域の一人としての活動は実施できた。
実行方針	結果	備考
1. 各フロア、家庭的、季節が感じられる雰囲気のある環境整備、行事計画、職員、利用者にとって安心安全な設備を整えます。	○	季節感あるリビング等の飾りつけ等で、施設内の環境整備が行えた。
2. 認知症の理解を深める為の研修を通じて、疾患の理解・認知症ケアの充実に努め、より一人ひとりの方を尊重した生活を過ごしていただけるよう支援します。	△	日々のミーティング等で気になる症状の利用者さんや認知症ケアの利用者さんの対応方法など意見を交わしより良い支援するよう取り組んだ。
3. 介護の知識・技術向上のために基礎介護、介護記録勉強会の実施。	×	基礎介護、介護記録勉強会は実行できなかった。
4. ご家族との外出・交流行事が困難な状況に合わせ、WEBでの面会や、ご家族へ行事の写真の送付などを行い、季節行事の推進、小規模多機能の年間計画の実行をすることで、家族、地域との顔なじみの関係、つながりを継続、維持します。	○	新型コロナウイルス感染症の感染状況を見ながら、少しでも面会ができるよう対応できた。1度だけであったが、ご家族にご本人の写真を郵送できた。
5. 小規模登録人数の目標平均を維持できるよう新規利用者の確保の為、送迎範囲の把握、大曲、西地区の地域性を理解し、大曲だからこそ出来る利用サービス形態の定着化。	△	大曲地域で3名の新規利用者を受け入れ、内2名は訪問メインの利用としてサービスを提供できた。小規模多機能の閉鎖を視野にしていたこともあり、それ以上の利用者は受け入れを自粛。
定量的な目標	結果	備考
特養:月平均17.5人 稼働率96.0%	◎	特養:月平均 17.7人 稼働率:98.4%
小規模多機能:登録人数平均10人。	△	小規模多機能:登録人数平均:6.8人
定性的な目標	結果	備考
大曲レインボーハイツならではのアットホームな雰囲気の中で利用者・ご家族・地域の方と共に大曲地域に根ざした施設を目指します。	○	ご家族や地域の方々とは直接交流をする機会はなかったが、大曲地域に
臨機応変な対応で利用者・ご家族が満足できるサービスを提供します。	◎	小規模多機能利用者に対しては、大曲だからこそできるサービスを提供し、在宅生活の支えとして役立てることができた。

令和3年度 事業報告

部門名： 向陽ヶ丘レインボーハイツ

結果凡例：◎100%、○80～99%、△79%～50%、×50%未満

運営方針	結果	備考
1. 少しでも利用者が楽しみある施設生活た、目的や楽しみを持った小規模多機能の利用に繋がるサービス提供に励みます。重度化対応に向け設備の修繕を行い、家庭的な雰囲気作り、環境整備への改善を図ります。また、食事を通しての楽しみやケアの充実を図ります。	○	コロナ禍の為、外出等は出来なかったが、施設内にて行事食や催し物などを行い、楽しみのあるサービスを提供できていた。
2. 一人一人に合わせた個別ケアの充実を図ります。	○	一人一人に合わせたケアを行い、受診や入院数の低下に繋げることが出来た。
3. 職員の想いや根拠あるケアの実現に向けて基礎介護の向上を図ります。利用者さんの些細な変化への気づき、根拠をもった統一したケアの向上に努めます。利用者さんの身体機能維持、向上への取り組みを行います。	○	リーダーを中心に根拠のあるケアを行うことで、利用者さんの身体機能維持に努めることが出来ていた。
4. 地元地域を中心に交流、協力、連携、行事参加を図り、地域や家族との関係が途絶えることのない生活を目指します。	△	コロナ感染防止の観点から、外出や地域行事の参加は殆ど出来なかった。ご家族の面会はWEB面会や窓越し面会、感染者数が少ない時期は対面でも、関係性を繋げることができた。
5. 目標に向けた入所者の稼働率の安定、小規模多機能居宅介護における登録利用者の確保登録利用の維持に努めます。	△	特養は目標稼働率96%以上を達成することができたが、小規模多機能については、お亡くなりになる方も多く登録数の減少となった。
実行方針	結果	備考
1. 年間・月間計画を作成し、季節行事や施設内行事、食事の楽しみ企画、実行の充実を図ります。季節感、家庭的な雰囲気ある環境整備を図り、施設設備の必要な修繕、修理を行います。(他、必要備品の購入)	○	年間・月間計画を作成し、外出は出来なかったものの、施設内の行事や行事・季節食などの提供など楽しみ持てるケアができた。施設整備は必要に応じ修理等行えた。
2. 個別ケアの充実にもついで、一人一人に合わせたケアに繋がるよう統一したケアを行っていきます。移乗介助や体位交換、ポジショニングに対する負担軽減を図れるよう、介護用品の整備、購入を行います。	○	リーダーを中心に一人一人に合わせたケアを行い、目標稼働率の達成にも繋がった。必要物品については購入等があまりできなかったため、来年度検討していきたい。
3. 特養入居者及び小規模多機能型登録利用者、一人一人に担当職員を付け、個別介護の充実、情報共有の強化を図ります。勉強会や研修会を通し、基礎介護力の習得、向上を目指し、統一した個別介護に繋がります。ユニットリーダーによるダブルチェックを実施し、体調不良等の早期発見、迅速な医療連携を取れるよう努めます。	○	各利用者さんに担当職員を継続してつけることで、個別ケアの充実につながった。研修や勉強会などはコロナ禍の為、少なくなりました。リーダーを中心に体調不良の早期発見に努め、早めの医療機関への受診等行い入院数の減少に繋げることができた。
4. 地元町内会や老人クラブへの加盟の継続、つながりを継続します。新型コロナウイルスを考慮しながら、予防対策を実施し可能な範囲での地域行事や会議等への参加、交流を図ります。施設広報紙“にじ色便り”の定期的発行(年4回)を継続します。運営推進会議を通し、地域の社会資源の把握、地域との情報交換を行います。利用者さんと家族との関りが途絶えることのないよう、オンライン面会や利用者さんの日々の状態を知れる取り組みを検討し実施します。	×	コロナ禍の為、ほとんど地域行事の参加は行えなかった。広報誌についても職員数の減少により作成時間が作れず、今年度は見送ることになった。面会についてはオンラインや窓越し面会を行い、コロナ感染者数が少ない時期には感染予防の上、対面での面会も行う事が出来た。
5. 退所者が出た場合の新規入所を10日を目標に速やかな新規入所対応に努めます。小規模多機能型居宅介護事業所の利用相談に可能な限り受け入れられるよう努めます。介護職員の雇用(常勤)1名、生活支援業務の業務分担の見直し、効率を図ります。今後のユニットリーダーの育成や新人教育に努め、職員の安定を図ります。必要な外部研修(認知症介護基礎研修、認知症実践者研修等)の参加への研修計画をたて実施します。	△	特養退所後の入所まではおおむね10日程度で行う事ができた。小規模多機能の受け入れは、職員数もすくなく見送っている状況。職員確保についても、退職者も多く必要人数を確保出来ていない状況。必要な外部研修には最低限必要な物には参加できた。
定量的な目標	結果	備考
特養：ベッド稼働率 96%、総入院日数、年間250日以下を目標に取り組みます。	◎	年間稼働率96.2%、総入院数216日と目標達成することが出来た。
小規模多機能：登録人数 年間平均11.0人、登録利用人数11人の維持に努めます。	×	年間8.7人、3月末で登録7人と減少となった。
定性的な目標	結果	備考
向陽ヶ丘レインボーハイツだからこそできる、生活感あふれる魅力ある施設作りを目指します。	○	特養、小規模共に特性を活かした施設作りを今年度も取り組んでいた。
利用者、家族、地域との馴染みの関係作りを大切にします。	○	コロナ禍の為、これまで通りにいかなかったが、感染対策を行った面会方法など行い関係性の継続に努めることができた。

令和3年度 事業報告

部門名： 養護老人ホームふれあい館

結果凡例：◎100%、○80～99%、△79%～50%、×50%未満

運営方針	結果	備 考
1.自らが望む暮らしができるよう、ひとり一人の尊厳を護り、こころ温かなふれあいを感じられる「利用者本位」の施設を目指します。	△	「施設だからできない」を極力なくして、ひとり一人の願いや想いを温かく受容・共感し、その人らしい暮らしが実現できる施設にしたい。
2.地域住民としての自覚がもてる生活環境づくりと地域との自由なふれあい広がる「開かれた施設」を目指します。	△	西地区活動推進協議会の運営、イベント等に積極的に参加・協力しく地域交流を推進している。現在、コロナ禍のため、活動や交流は控えている。
実行方針	結果	備 考
1.経済的事情だけでなく、養護老人ホームで対応すべき特有の福祉的な生活課題を有した高齢者の入所を優先する。課題を数値化して入所順位を決める。複雑で多様な生活課題を抱えて入所に至った方々が、安心して穏やかに暮らせる環境と接遇・ケアを充実していく。	◎	一般1人、特定7人が新規入所となった。独居5人、他施設から入所2人、病院からは1人の入所経路となっている。地域への迷惑や影響がによる入所が5人(アルコール依存1人、認知症4人)と福祉的課題が顕著なケースが措置依頼され入所している。
2.西地区地域活動推進協議会、大曲町内会、民生委員といった地域の人的資源との連携を深め、施設が地域活動に参画することで、地域の福祉的ノウハウの向上を図る。	△	西地区の地域交流事業、地域防災訓練等は感染症対策のため全て中止になっているが、協議会や高齢者部会の会議には担当者ができる限り出席し、地域ぐるみの施設運営、社会化を進めている。
実行計画	結果	備 考
「新型コロナウイルスから自分と施設を守る意思と行動を！」のスローガンを継続し、職員ひとり1人が、絶対に施設に持ち込まないという自分を律する行動ができる。	○	感染地域や札幌市等への往来、帰省、来訪については、職員が報告書を書き、施設長が指示書を出す体制により、漏れなく感染リスクの緩和解消を行った。職員の同居家族の所属先も任意で把握し、事前に家庭での状況を知り、施設に持ち込まないようにした。
施設という性格上、在宅では普通にできることに制限や支障が見られる。健康に関して 必要な医学的管理と本人の望む暮らしの尊重とが調和され、配慮された生活が送られる。	◎	自宅での生活は自由であり、自己責任のもとに自らが望む生活をする事ができるが、施設は、健康管理のもと病気の悪化等を防止するための指導や制限がある。看護師や栄養士、最も利用者に近い支援員が連携し、納得のできる協議や意見の擦り合わせにより調整することができた。
定量的な目標	結果	備 考
新型コロナウイルス感染の防止には、入所者・職員のワクチン接種が有効なので、ワクチンに関する適切な情報提供を行い、入所者は90%、職員は80%の接種率を目標とする。	○	1～2回目のワクチン接種は、利用者84%、職員は29人中28人が接種し97%という接種率となった。追加接種は、入院が多く利用者は36人、職員27人(93%)だった。インフルエンザワクチンは、利用者44人、職員25人が接種している。
受診、通院が月40件程度あり、1日3～6往復の車両運行している。現在のリフト付きバスは、平成14年式のため、同乗者、入所者への影響が大きく、車両の更新に向けた。	◎	車イスを2台搭載できる車両が、6月に納車となった。スロープ式の低床タイプのワゴンであり、乗り心地はよくなっている。
自立した入居者は、無為に過ごすことが多すぎないように、生きがいや楽しみが発見でき、役割が持て、節句や時節の行事などを大切に。非日常的な「ハレの日」の企画を行う。	◎	新型コロナウイルス感染防止のため、屋外に出かける行事、芸能披露(慰問)受入れは、すべて自粛した。代わりに、誕生会、ゲーム大会、映画会、スイカパーティ、クリスマス会、洋服店、おうちで外食、手作りおやつなど館内でのイベントや催しを充実させた。
「介護と医療は一体である」という意識のもとで、看護職員と支援員(介護福祉士)との信頼と連携が高まるよう努力し、介護と医療のチームケアが構築されるようにしたい。	◎	年間の入院者は16人、総日数は620日(1人平均38.8日)であり、令和2年度より122日減となっている。利用率は、96.1%(一般95.3%、特定は96.7%)であり、目標を達成している。1日の平均在所者数は48.1人となった。
定性的な目標	結果	備 考
入所者の生活支援、直接介護行う支援員は、身体介護や配慮された関与等、専門性の高い介護や支援に専念できるようにする。高齢や病気を有する職員は、軽微な間接ケアに専従することで、介護支援員の専門性と介護力の向上を図るようにする。	○	現在、夜勤に従事できる支援員が19人中、14人となっている。日勤中心の5人は、職員1人、嘱託2人、非常勤2人であり、75歳という高齢者(嘱託)1人、病気による業務制限が2人、知的障害雇用が1人である。そういった障害に応じた就業上の配慮を行っている。
「うつらない・うつさない・もちこまない」ため、職員の自らを律する行動を継続、貫徹する。	○	職員には、随時、チラシ(通知)やSNSを活用して、感染防止対策、市内外の感染情報や行動指針、注意事項などを周知している。情報共有が感染防止の一翼を担っている。
前年度から始めた階別専従配置のフロアケアについては、「利用者主体」と「つながるケア」「根拠と責任あるケア」を目標として、施設自体が有機的に成熟できるようにしていきたい。	○	階ごとに職員を専従にするフロアケアを始めて、1年半が経過して、確実に定着した。適時、階の異動を行い、階の特殊性を生かした「利用者主体」「つながるケア」を実践している。

令和3年度 事業報告

部門名: 網走レインボーハイツ デイサービスセンター

結果凡例:◎100%、○80～99%、△79%～50%、×50%未満

運営方針	結果	備 考
1. 人と人とのつながりを大切にしてたくさんの笑顔をつくれるデイサービスを目指します。	○	コロナ過で活動が制限された中でもたくさんの笑顔があり、楽しんでもらうことができました。
2. 人生の先輩である利用者様へ尊敬の念を抱いて日々のケアをしっかりと行っていきます。	○	親切的な介護、丁寧な声掛けを心がけて対応しました。
3. 在宅でのシニアライフが充実したものになるようにデイサービスを通してお手伝いします。	○	ご自宅での生活を踏まえたデイサービスでのサポートを考えてサービスを提供しています。
4. 網走の催しへ参加、網走の歴史を知り、網走を楽しめるように活動を行います。	×	感染症対策のこともあり地域の交流などが行えませんでした。
5. 多くの方がデイサービスをご利用できるように新規利用者の受け入れを行っていきます。	○	感染対策にて利用制限がありつつも数多くの新規がご案内となりました。
実行方針	結果	備 考
1. 利用者様、ご家族のニーズに沿ったケアプラン作成、実施、モニタリング、評価を行います。	○	ニーズに沿った通所介護計画を作成し実践を行っています。
2. 利用者様に寄り添って「やりたいこと」「必要なこと」をお手伝いできるデイサービスを目指します。	△	感染症対策にて活動に制限があり、お手伝いできることが少なかった。
3. プログラムの多様化、行事の充実化を図り、楽しく通える場所を作ります。	△	室内でのレク、体操は充実化したが、外出の企画などは行えませんでした。
4. 網走の文化、季節を感じられるようにボランティア、市などの各関係機関と連携を行います。	×	地域のイベントは中止、ボランティアとの交流も行うことができませんでした。
5. 居宅支援事業者や利用者様へ新規の利用者さまのご紹介を頂けるように進めていきます	○	多くの新規利用者様をご紹介いただきました。
定量的な目標	結果	備 考
1日平均20.0件を目指します。	○	1日平均21.2人(前年比 +0.4人)
年間実績数 6,350件、月530件 を目指します。	○	年 6,216件 (前年比 -54人) 月平均 518人 (前年比 -4人)
定性的な目標	結果	備 考
・施設内・外の勉強会、研修を通し、スタッフが知識をもってケアに臨むことができるようにします。	△	外部の研修は参加できませんでした。内部研修では個別機能訓練を中心に学習を行いました。
・「おもてなし」の心を持って施設、送迎車の掃除、整理整頓を行います。	○	感染症対策に伴い、施設内、送迎車の消毒をこまめに行っています。

令和3年度 事業報告

部門名： レインボーハイツ あいむデイサービスセンター

結果凡例：◎100%、○80～99%、△79%～50%、×50%未満

運営方針	結果	備 考
1. 個々に必要なサービスを安心して受けられる場を提供します。	○	入浴や機能訓練など、個々のサービスに応じて安全面を考慮して対応することができました。
2. 利用者様の大切にしている生活を共有し、利用者様らしく生活ができるように努めます。	○	ご本人やご家族、ケアマネジャーと連携を取りながら状態を把握し、支援や確認することができました。
3. 持っている力を活かせるレクリエーションや行事を行い、有意義な時間を過ごせるように努めます。	○	壁飾り作りや玉入れ、カレンダー作りなど、その利用者様にあったレクリエーションを取り入れ、楽しめる環境を作ることができました。
4. 地域との交流を大切にし、地域から必要とされるデイサービスを目指します。	×	コロナウイルス感染予防による地域行事の中止や外出制限により、地域交流はできませんでした。
5. 利用定員を意識しながら稼働率の安定を図ります。	×	利用者様のコロナウイルス感染予防、体調不良による長期お休みや施設入所が重なり、安定した稼働率を維持することは出来ませんでした。
実行方針	結果	備 考
1. 利用者、ご家族のニーズに添ったケアの実施。共に楽しく過ごす事のできるデイサービスを提供します。	○	あいむに来所されるのが楽しい環境づくりをすることができたが、機能訓練の休止を残念に思われる方が多くいました。
2. 一人ひとりのケアの充実。利用者の「やりたい事」を実行できるデイサービスを目指します。	○	一人一人にあった塗り絵や機能訓練などを行い、洗濯物干しなどやりたい活動を提供することができました。
3. 外出、体操、創作活動等のプログラムの多様化を進め、楽しく過ごされる場所を作ります。	○	外出はコロナウイルスのためできませんでした。体操を行ったり、輪投げや玉入れなどみんなで楽しめるレクリエーションを行うことができました。室内でのレクリエーションではできることが限られているため、今後ストレッチなど取り入れたいと思います。
4. 地域のイベント、行事への参加。季節を感じられる取り組みを行います。	○	コロナウイルスのため地域イベントは開催されていませんが、壁飾り作り(桜や雪の結晶など)を毎月行うことで、季節を感じてもらうことができました。9月は室内でお祭りを行い、皆さん楽しませていました。
5. 加算の取得を考え、単価を上げることを意識して業務を進めていきます。	△	機能訓練をすることで加算を取ることができましたが、大きな収益には至りませんでした。
定量的な目標	結果	備 考
介護保険(要介護、総合事業) 年間実績数 8,000件、月665件、一日平均22.7件を目指します。	×	延べ利用者人数6,137件、1日平均19.2件で、目標は達成できませんでした。4月から9月までは土曜日を休日にしたことによる利用者様の減少、5月はコロナウイルス拡大のため2週間程度の休業をした影響が大きく、複数回利用の方の施設入所や、お休みが多かったためと思われます。
定性的な目標	結果	備 考
・人生の先輩である利用者様に敬意を持った対応を行います。	○	利用者様との距離感が近くなり過ぎることがあり、敬意を欠いた言動となることがありました。
・施設内・外の勉強会、研修を通し、スタッフが知識をもってケアに臨むことができるようにします。	△	個別機能訓練における学習会や情報交換会をおこない、コロナウイルス対策も周知できたが、コロナウイルスのため他の研修ができませんでした。
・感染症予防に取り組み、過ごしやすい環境整備を行います。	◎	こまめに手の消毒や室内の換気をおこない、食事時の際は密にならないよう席の移動をお願いしました。送迎車は送迎が終わり次第、朝と夕に2階消毒と清掃を行っています。

令和3年度 事業報告

部門名： 網走レインボーハイツ 在宅介護支援センター

結果凡例：◎100%、○80～99%、△79%～50%、×50%未満

運営方針	結果	備考
1. 利用者、家族への「丁寧な」対応と「やすらぎと安心感」を提供する姿勢	○	傾聴姿勢は崩さずに利用者・家族へ安心感を提供した。
2. 利用者のサービス管理から健康管理、生活機能向上へ向けた管理	△	常に念頭において実施した。
3. 高齢者の状態変化への対応強化（認知症・中重度高齢者）	○	状態変化を見逃さず、随時対応している（サービス量、区分変更等）。
4. 医療との連携	○	医療職（医師、看護師、リハビリ職、薬剤師等）連携を図った。
5. 新規依頼は断らない。要介護のみならず要支援、事業対象者もマネジメントする	◎	困難事例も含めて断らず、他事業所からのケースも引き継ぎ、積極的にマネジメントを行った。
実行方針	結果	備考
1. 技術、重度化対応知識の習得（ソーシャルワーク＋ケアワーク）	△	ケアワークについての学びの機会が少なかった。
2. サービス提供ネットワーク内での利用者の健康情報の共有と予後予測の習得	○	健康情報と予後について常に検討した。
3. 医療と介護の連携（多職種協働）による認知症、中重度高齢者マネジメント、生活機能向上	○	入院時の情報提供や、診察同行し主治医と協働した。
4. ケアマネ自身も支援者になる	○	ケアマネ自身、支援者になり利用者へのサポートを行った。
5. 総合事業への対応継続	◎	両地域包括支援センターより、積極的にマネジメントAおよびBの委託を受けた。
定量的な目標	結果	備考
1. ケアマネ6名体制（管理者除く）。特定事業所加算Ⅱ算定。その他加算の算定。	○	6名体制とはならなかったが、5名維持し、特定事業所加算Ⅱ算定。初回加算を算定している。
2. 年間1,600件利用（介護給付）	◎	2,012件（介護給付）の実績だった。
定性的な目標	結果	備考
1. 6名体制でのチームワークづくりとフォロー体制の構築	○	ミーティング等により5名でのよりよい関係づくり、連携を図ることができた。
2. 最新のケアを知る（新しい助言へ）	△	学ぶ機会は少なかった。

令和3年度 事業報告

部門名： 網走レインボーハイツ ホームヘルパー派遣センター

結果凡例：◎100%、○80～99%、△79%～50%、×50%未満

運営方針	結果	備考
1. 利用者に「助かった・ありがたい」と感じていただけるようなサービス、笑顔を提供します。	○	利用者から新たな要望が出た時は、ケアマネジャーにフィードバックしました。
2. 利用者が「ご自分で、判断、決定してゆく」ことができるように、説明、助言します。	○	「利用者毎のこだわり」や「やりたい事」等を大事にしてきましたが、実現はとて大変です。
3. 利用者が困らないで生活できるように、温かく情報提供できるヘルパーを目指します。	△	出来る事を増やして頂くことは難しいですが、持続する事のサポートはできたと思います。
4. ご家族、町内会、援助者、介護保険担当者等との繋がりを大切にする気持ちを見守ります。	△	新しいお付き合いは、なかなか増えませんが、今までのお付き合いを、大切にすることはできたのではないかと思います。
5. 利用者の環境、からだ、気持ちの変化に応じた適切なサービスにより、利用者数を維持します。	○	より良いサービスを心掛けました。ヘルパーの収入調整があり、新規利用者の受け入れが難しい場合がありました。
実行方針	結果	備考
1. 利用者の希望を満たす、過不足のないサービスを目指します。	△	ヘルパー同士、担当者会議等で、見直しを繰り返しました。まだまだ、努力は必要です。
2. 利用者が意思決定する場面を意識しながら、サービス提供をします。	○	口から発する言葉だけではなく、思いを探って、理解しようと心掛けました。
3. ヘルパーは、利用者にとって、気楽に、安心して相談できる訪問者になります。	○	コロナ禍の中で、信頼関係を築こうと、いつも心掛けていたと思います。
4. 対話を大切にし、ひきこもりがちにならないよう、話題を見つけ、声掛けをし、見守ります。	○	それぞれの利用者が、出来る限り自分の持っている力を発揮して生活できるようサポートできたと思います。
5. 利用者の変化を、素早く感じ取れ、他職種援助者との連携をとれるヘルパーを目指します。	○	同じヘルパーが続けて訪問することで、安心してサービスを受けて下さっていたように感じます。
定量的な目標	結果	備考
年間780件	○	年間881件でした。 訪問介護員採用1名募集 更に利用者増を目指します。
定性的な目標	結果	備考
職員の健康管理、働きやすい体制を整え、やりがいのある仕事を長く続けられるように協力し合います。 利用者の痛み、とまどい、喜びに寄り添えるヘルパーを目指します。	○	コロナ禍の中、利用者の体調や、生活状況の変化に気づき、サービス担当者間で連絡、情報共有できたことで、訪問に活かされたと思います。